

野川マップ

生きもの観察のすすめ

野川とハケの森には、魚や鳥、昆虫や草花など、たくさんの生きものが生息しています。ここでは、野川流域で良くみかけることのできる水辺と緑地の生きものを紹介します。



水生生物の観察

野川では、ドジョウやメダカ、コイやナマズ、スズエビ、スッポンなどたくさんの生きものを見ることができます。湧水地は、低水温できれいな水が流れ、ホトケドジョウやサワガニなどを見ることができます。

野鳥の観察

野川を代表する鳥として、カワセミが見られます。また、カモの仲間やサギの仲間など多くの鳥に出会うことができます。ハケの森では、オオタカやフクロウなどにも出会うことができます。



昆虫の観察

ハケの森では、カブトムシやクワガタ、チョウの仲間を見ることができます。水辺では、多くのトンボの仲間やゲンジボタルなども見られます。

植物の観察

野川では、ヒメガマやヨシ、湧水地では、ミクリやセキショウなどを見ることができます。ハケの森では、クヌギやコナラなどの樹木や、キツネノカミソリやニリンソウなどの花々が見られます。



上流の水

図鑑に外がついているのは、外来種。特がついているのは、特定外来生物。

鳥類 ※留鳥(りゅうちょう)とは、年間を通して野川周辺に生息し、季節による移動をしない鳥。
コガモ ・冬鳥 ・37.5 cm
カイツブリ ・留鳥 ・26 cm
コサギ ・留鳥 ・61 cm



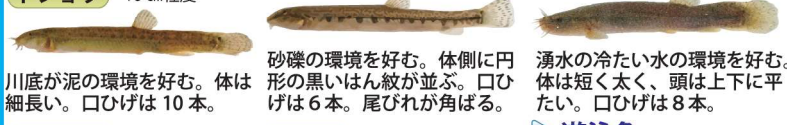
くちばしの先は黄色。5～8月頃ヒナを連れて家族が見られる。
 オスは頭部が栗色、目の周囲が緑色。カモ類で一番小さい。
 カモ類より小さい水鳥。盛んに潜水し小魚や昆虫を食べる。
 くちばしが黒色、指先が黄色。指先で魚を追い出し捕食する。

昆虫類 アオモイトトンボ ・4～9月 ・30～35 mm
ハゲトンボ ・6～11月 ・57～68 mm
シオカラトンボ ・5～11月 ・47～61 mm
ウスバキトンボ ・6～10月 ・44～54 mm



オスのお腹は緑色に輝く。水のきれいな緩い流れに生息。
 オスの腹部の第8・9節が白色。メスは同色型と異色型がいる。
 オスもメスもお尻の先が黒い。メスは別名むぎわらトンボ。
 水辺で良く見られる。翅の幅が広く、体は赤褐色。

魚類 ▶ **底生魚**
ドジョウ ・10 cm程度
シマドジョウ ・10 cm程度
ホトケドジョウ ・6 cm程度



川底が泥の環境を好む。体は細長い。口ひげは10本。
 砂礫の環境を好む。体側に円形の黒いはん紋が並ぶ。口ひげは6本。尾びれが角ばる。
 湧水の冷たい水の環境を好む。体は短く太く、頭は上下に平たい。口ひげは8本。

カマツカ ・13 cm程度
ナマズ ・50～70 cm
遊泳魚
ミナミメダカ ・5 cm程度



体やひれに斑紋があり、口先は長く下に尖る。砂礫の環境を好む。口ひげは2本。
 背びれが小さい。口ひげは4本あり2本は非常に長い。夜行性。
 目が大きい。しりびれが幅広くて長い。

カワムツ ・15 cm程度
タモロコ ・8 cm程度
モツゴ ・8 cm程度



オイカワに似るが、背びれ前端が赤く体側に藍色の線がある。
 体の側面にぼんやりした線がある。口ひげは2本。
 口先がとがり、上を向いている。体の側面に黒くて目立つ線がある。

野川流域の水辺の生きもの

上流の様子



湧水地
上流には、多くの湧水地がありますが、川の水量は下流より少なく、ほとんどが浅い流れとなっています。また、湧水が流れ込むため、低い水温やきれいな水を好む生きものが比較的多く見られます。

下流の水



水辺の生きもの図鑑

<p>ダイサギ：留鳥 90 cm</p> <p>くちばしは夏に黒色、冬に黄色になる。写真右の鳥はコサギ。</p>	<p>アオサギ：留鳥 93 cm</p> <p>日本で一番大きなサギ。半夜行性で昼間はよく休息している。</p>	<p>ゴイサギ：留鳥 57.5 cm</p> <p>夜行性で、日中はじっとし、夕方になると餌場に飛び立つ。</p>	<p>カワセミ：留鳥 17 cm</p> <p>「水辺の宝石」と呼ばれる。水中に飛び込んで魚を捕える。</p>	<p>カワウ：留鳥 82 cm</p> <p>潜水して魚を食べる。濡れると翼を広げて乾かす。</p>	<p>バン：留鳥 32 cm</p> <p>足は黄緑色で指が長い。警戒心が強く水辺の草に隠れる。</p>	<p>イソシギ：留鳥 20 cm</p> <p>尾を上下に振りながら水辺を歩き、水生昆虫等を食べる。</p>	<p>タシギ：冬鳥 27 cm</p> <p>長くくちばしを泥の中にさしこんで、ミミズなどを食べる。</p>
<p>ギンヤンマ：5~10月 65~84 mm</p> <p>オスの腹部のつけ根は、水色、メスは黄緑色。</p>	<p>オニヤンマ：6~10月 82~114 mm</p> <p>日本最大のトンボ。幼虫の頃は湧水地に生息。</p>	<p>アキアカネ：6~12月 32~46 mm</p> <p>アカトンボの代表種。夏に山手に移動、秋に低地に現れる。</p>	<p>ミヤマアカネ：7~11月 30~41 mm</p> <p>ミヤマとあるが川べりや調節池の田んぼに生息。</p>	<p>ゲンジボタル：5~7月 15 mm</p> <p>幼虫(右)は湧水地でカワニナを食べる。6月頃羽化し、光を使った繁殖を行う。</p>	<p>植物</p> <p>オギ：花9~10月 多年草 穂先にノギと呼ばれる毛がない。</p> <p>ヨシ：花8~9月 多年草 川岸などに生える。高さ2~3m。</p> <p>ミクリ：花6~7月 多年草 野川の湧水沿いで見られる。</p>		
<p>ウキゴリ：10 cm程度</p> <p>背びれが2つあり、第1背びれの後縁に黒点がある。</p>	<p>スミウキゴリ：8 cm程度</p> <p>ウキゴリに似て尾のつけねが黒いが、背びれに黒点はない。</p>	<p>クロダハヒ(トウヨシノボリ)：6 cm程度</p> <p>代表的なヨシノボリの仲間。流れの緩やかな場所にいる。</p>	<p>甲殻類</p> <p>カワリヌマエビ属：1 cm程度 水際の水没した草の中に多数生息。</p> <p>スズエビ：5 cm程度 スズが明瞭。淵や淀みの大きな石の周囲に生息。</p> <p>アメリカザリガニ：10 cm程度 雑食性で水の汚れに強い。</p> <p>サワガニ：甲幅3 cm 野川本流には少ないが、湧水地に生息。</p>				
<p>ギンブナ：15~40 cm</p> <p>口ひげはない。背びれの1番目のとげがかたい。</p>	<p>コイ：40~80 cm</p> <p>フナよりも淀みや深いところを好む。口ひげは4本。</p>	<p>オイカワ：15 cm程度</p> <p>オスの婚姻色はきれい。しりびれが後ろにのびている。</p>	<p>貝類</p> <p>サカマキガイ：1 cm程度 殻は薄く左巻き。水の汚れに強い。</p> <p>カワニナ：3 cm程度 ゲンジボタルの幼虫の餌として知られる。比較的きれいな水を好む。</p> <p>タイワンシジミ：2 cm程度 マシジミに似るが、殻の内面が一面濃紫色。砂地に潜っている。あまりおいしくない。</p>				
<p>アブラハヤ：10 cm程度</p> <p>黒っぽい線が1本ある。ねん液が多く、触るとヌルヌルする。</p>	<p>タイクハバラナゴ：6 cm程度</p> <p>目の周りが赤い。体の側面に青い線がある。</p>	<p>アユ：15~25 cm</p> <p>背びれと尾びれの間は脂(あぶら)びれがある。川底の石に生えた珪藻を食べる。</p>	<p>両生類</p> <p>ニホンアマガエル：3 cm程度 田んぼなどによく産卵する。</p> <p>アズマヒキガエル：6~18 cm 身を守るために皮膚から毒を出す。</p> <p>ニホンアカガエル：5 cm程度 林に棲んでいて産卵の時に水辺に集まる。</p> <p>ウシガエル：12~20 cm 特 貪欲に他の生物を食べる。牛のような声で鳴く。</p>				